



カーニバル

FREE

2023.01

「病院×神楽」

写真家・中村治が
映画『高津川』の「左鎧社中」公演を熱写

「腎臓」最前線を知る

「不可逆性」「腎移植」「腎センター」

鳥大の人々

坂本 誠

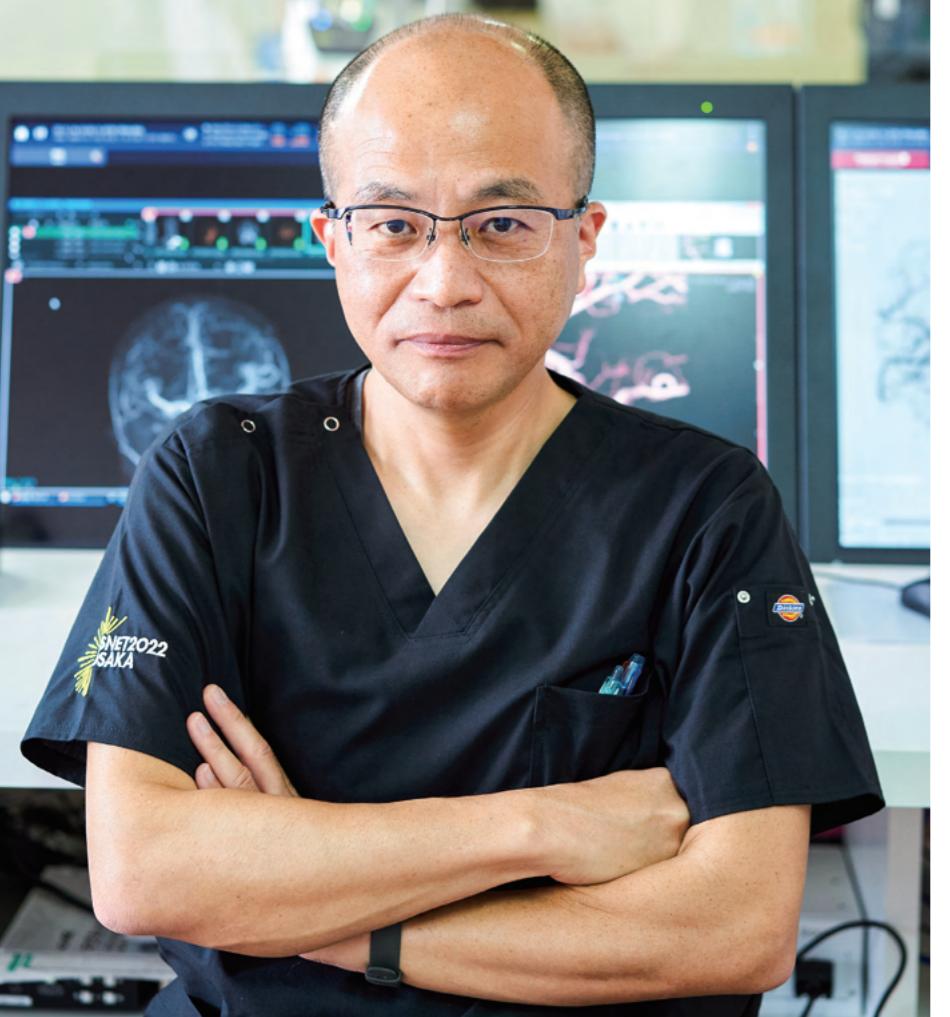
鳥取大学医学部附属病院
脳神経外科 准教授

●病院長対談

「たすくのタスク」木村皓一（ミキハウス代表取締役社長）

スイーツ上田の
「山陰」これ食っときゃ
間違いない！

【好評連載】境港在住、駆けだし小説家の独り言「ふみ日記」



写真・中村 治

幸いだったのは、彼の父親が学校に行かないことをなじつたり、叱ることはなかったことだ。せめて友だちとの関係をつないでおきたいと考えたのだろう、坂本を連れて毎朝校門まで行き、挨拶をさせた後、家に連れて帰った。

「教科書ガイドみたいな答えが書いてある参考書を使って一人で勉強していまし

できなかつた親孝行を 病気で困つているこの地の方々に返したい

坂本 誠 鳥取大学医学部附属病院 脳神経外科 准教授

カテーテルを使用した脳血管内治療のエキスパートとして日々大勢の診療を行なっている坂本は、小学校から中学校の間、不登校となり家にひきこもっていたといった。そこから医師を目指し現在に至るまでの道を振り返ると、いつも見守つてくれた父親の存在があった。

坂本誠の人生最初の躊躇は、小学校3年生のときだった。通っていた小学校では給食を誰が早く食べるかを競うことが流行っていた。負けたくないと思った坂本が食べたふりをして捨てていたのを担任だった女性教師にみつかってしまったのだ。こっぴどく叱られ、翌日から学校に行かなくなってしまった。登校拒否である。

自分で壁を作っていたんでしきね、と坂本は首を振る。

「一日休むと次の日に行きにくくなる。病気じゃないのになんて休んでいるんだろう」と友だちたちも考えているだろうって思うようになったんです。人の目がすごく気になつて行けなくなつたんだでしょうね」と坂本は首を振る。

「一日休むと次の日に行きにくくなる。病気じゃないのになんて休んでいるんだろう」と友だちたちも考えているだろうって思うようになったんです。人の目がすごく気になつて行けなくなつたんだでしょうね」と坂本は首を振る。

坂本は1972年に兵庫県北部の美方郡美方町（現・香美町）で生まれた。山の谷間にへばりついたような小さな町で、冬になると大雪が降つた。屋根の傾斜を使つて橇（そり）で遊んだこともある。豊かな自然に恵まれた場所だったが、住民みんなが顔見知りという状況に息苦しさを感じていた。

幸いだったのは、彼の父親が学校に行かないことをなじつたり、叱ることはなかったことだ。せめて友だちとの関係をつないでおきたいと考えたのだろう、坂本を連れて毎朝校門まで行き、挨拶をさせた後、家に連れて帰った。

「カニジル」が第一にこだわるのは「ファクト」です。医療に関して、不正確な情報が世の中にあふれています。短く、分かりやすい言葉は人々の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はそう簡単ではありません。分かりやすくするため、大切なものを多くそぎ落としています。

医療は、科学的に証明されていることとそうでないことを完全に二分できない世界です。その時点でのファクトリエビデンスを重んじていても、そのファクト自体がひっくり返ることもあり得る。大切なのは、愚直に取材し、確かな文献に当たり、真摯に考へる——それが我々の姿勢です。

昨今の新型コロナウイルスに関する報道で「インフォデミック」という言葉を耳にした方も多いでしょう。これは情報が感染症のように拡散し現実社会に影響を及ぼす現象を指します。SNSなどの発達により、我々が手にする情報は爆発的に増えました。その中から、いかに正確な情報を選び取ることができるか。生命の危機にも直結する

名産品、「蟹のだし（味噌）汁」にも掛けています。蟹汁のように皆さまに愛される存在でありたいという思いを込めました。「カニジル」となりました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の医療は生活に切り離せない。しかし、敬遠したり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。そこで、医療の世界を「いかに知つてもらうか」→「いかに知る」→「カニジル」となりました。

いという人はいません。どんな人にとっても医療は生活に切り離せない。しかし、敬遠したり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。そこで、医療の世界を「いかに知つてもらうか」→「いかに知る」→「カニジル」となりました。

カニジル宣言



医学では、その力が特に必要になつてきます。

米子市出身の経済学者、宇沢弘文は著書

の中で「社会的共通資本」を「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆ

たかな経済生活を営み、すぐれた文化を開発し、人間的に魅力ある社会を持続的、安

定的に維持することを可能にするような社

会的装置」と定義しました。また「一人ひとりの人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、

市民の基本的権利を最大限に維持するため

に不可欠な役割を果たすもの」とも書いて

います。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、この地域でもっとも人が集まる場所です。すぐれた文化を開拓し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持する可能性を秘めているという意味で、まぎれもない「社会的共通資本」であると我々は考えます。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱える問題が凝縮されています。一方、人との温かいつながり、自然など、都会はない豊かさがある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持していくか——。先んじて未来の問題を解決できる場所なのです。

新型コロナウイルスは日本社会の変化を促すことになりました。リモートワークが進めば、住む場所を選びません。都市と別の視線を持つことが、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代のニューノーマルとなるかもしれません。

カニジルは、ファクト重視、地方からの文化発信にこだわっています。

03 島大の人々	鳥取大学医学部附属病院 脳神経外科 准教授
10 病院×神楽	「不可逆性」「腎移植」「腎セントラル」 写真家・中村治が映画『高津川』の「左鎧社中」公演を熱写
14 「山陰」これ食つときや間違いない！	スイーツ上田の「山陰」
16 「腎臓」最前線を知る	病院長が時代のキーパーソンに突撃！ たすくのタスク
20 「ふみ日記」第四回	株式会社ミキハウス代表取締役社長 木村皓一 現場を知ることの大切さ
21 「脇道」の景色もまた楽し	とりだい「人生を変えた一冊」 薬剤部 森木邦明
22 「Tottori Breath	カニ箱——カニジルご意見箱
23 「鳥取大学医学科生＝医師のたまご」	飛鳥の森——編集後記
24 「略して“どりたま”に訊け！」	トリビート フォトグラファー 中村治が切り取る、 とりだい病院の日常

Kanijiru vol.12 Staff

- スーパーバイザー 結城豊弘 黒崎雅道（とりだい病院 広報・企画戦略センター長）
- 編集長 田崎健太
- 編集 中原由依子 大川真紀 井野琴音
- 写真 中村治
- デザイン 三村漢 大貫
- 制作管理 藤木雄一（今井印刷）

た。父親が知り合いだという教育実習生の方を連れてきたこともありました。でも一緒にドライブに行つたぐらいで、勉強を教わった記憶はないです」

小学校は「学年一クラス、担任は持ち上がるうことになる。結局、卒業まで小学校に行くことはなかった。

中学校進学を機に学校に通い始めたが、半年しか続かなかった。

「その中学は必ず部活に入らなくてはならなかつたんです。バレー部とバスケット部しかなくて、バレー部を選びました。そうしたらすごい怖い先輩がいて、なんか萎縮しちゃつて、また学校に行けなくなつてしまつた」

中学校も小学校と同じ一クラス。顔ぶれも変わらなかつたことも一因だった。再び、自宅で学校と同じ時間割で自習する日々だった。

「学校と同じ時間割で、勉強するんです」

10代は悲観的になりやすい時期だ。自分が終わつたと暗い気持ちになることもあつた。今度こそなんとかしなければならない、高校進学が最後のチャンスかもしれない。そう考えた坂本は同級生がほとんど進学しない養父市の八鹿高校を選んだ。香美町から距離的には遠くないが、交通の便が悪い。過去、入学した生徒は高校の近くに下宿していた。自分は一人暮らしに向かないと坂本はバスに1時間乗つて通つうことを選んだ。

この人生の「リセット」に坂本は成功

と、自分の至らない部分が目に付いた。「自分一人でできるという自信があつたんです。確かに手は動かせるんです。でも治療はそれ以外の部分も必要。どのように手術を進めるかという戦略、知識、経験。根本先生がカバーしていくくれたんだと気がつきました」

坂本は他の医師の手法を学ぶため、日本全国の評判の高い病院の視察に出かけている。こういうやり方があるのかと改めて目を開かされたこともあつた。医師という職業にやり甲斐を感じたのはその頃だ。脳血管内治療は自分の天職ではなかつた。音信不通にしている間、父親が腰のヘルニアで何回か手術をしていました。姉から父の具合が悪いことを知らされた。

父親への後悔が変えた、医師としての在り方

鳥取大学医学部進学以降、坂本は実家から足が遠のいていた。子どもの頃の空息しそうな思い出から目を背けていたのかもしれない。

「ほとんど帰つていなかつた。年に一回帰ればいいぐらい。音信不通にしている間、父親が腰のヘルニアで何回か手術をしていたんです」

自分ならばヘルニアに詳しい医師を紹介することもできた。なぜ相談してくれなかつたのかと口惜しかつた。町役場で働いていた父親は口数が少なく、人に頼ることを潔しとしない性格だつた。忙しきなかつたんですが、意識がなくなる前、



カテーテル治療の「師」との出会い

坂本の専門は脳神経外科である。脳神経外科は、脳外科とも呼ばれ、脳、脊髄、神経を専門に診断、治療する。脳卒中の脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などのが該当する。

坂本が脳血管内手術と出合つたのは鳥

声を掛けたときちょっとだけ反応がありました。それだけでも良かつたかなと」 小学校で登校拒否をしたとき、父親が学校まで付き添つてくれなかつたらどうだつたろうかと思うことがある。今となつては、わざわざ子どもを学校まで連れていいくという手間の重みが良くわかる。その恩のある父親に不義理をしたというずりりとした痛みが残つた。

「ぼくにとつては大きな存在だつたんですけど、困っている人がいるとすぐに手を差し伸べる。特に女性とか子どもに優しい人でした。人がやりたがらないことを率先してやる。すごいなと思つていました」

入院中も最後まで父親に感謝の言葉をきちんと伝えられなかつたといふ。聞くところによると、父親は親孝行を、病気で困つてしまふ。困つておられる人には、お年寄りの方にできたらと」

「大学病院などで、一人ひとりの患者さんと向き合つ時間はどうしても少くなかつてしまふ。その中でもできるだけ話を聞いていこうと思うようになりました。できなかつた親孝行を、病気で困つてしまふ。困つておられる人には、お年寄りの方にできたらと」

「週に2日か3日走つています。土砂降りの中を走りたくないでの、天気予報を見ながら、その週の予定を組みます。ただ、決めた日が雨や雪でも走りますね」 治療と同じように、決めたことは絶対にやり抜くというのがぼくのポリシーなんですと微笑んだ。

「ぼくの世代で途切れたら、何のためにやっていたのかという風になつてしまふ。

文・田崎健太
1968年3月13日京都市生まれ。ノンフィクション作家。早稲田大学医学部卒業後、小字館に入社。『週刊ボスト』編集部などを経て独立。著書に『偶然完全勝新太郎』(球童良部秀輝)、『ミズノボーライター賞優秀賞』(電通D&I F A)、『真説長州力』(真説佐山サトル)、「スポーツアイデンティ」(太田出版)など。小学校3年生から3年間鳥取市に在住。2019年、「カニジル」編集長に就任。2021年、(株)カニジルを立ち上げ、9月からとりだい病院1階で「カニジルブックストア」を運営中。

坂本誠(さかもとまさむね)
兵庫県生まれ。1991年鳥取大学医学部卒業。2002年鳥取大学大学院医学系研究科外科学専攻博士課程修了。医学博士。公立八鹿(ようか)病院、虎の門病院、松江市立病院などを経て、2005年より鳥取大学医学部附属病院。2016年4月より現職。

した。高校では生物部に入り、親しい友人もできた。ようやくまともな学生生活が送れるようになったと安堵していた1年生の夏のことだつた。

「期末試験を受けていたら、熱っぽくて調子が悪かつたんです。そのまま試験を受けたんですが、お腹が痛くてどうしようもなかつた」

病院に行つてみると虫垂炎をこじらせており腹膜炎となつていた。すぐに手術を受け、3週間入院することになった。

「同級生が宿題を持って来てくれたんで、病室でやつていたんです。そうしたら病院長が回診でやつてきて、パラパラっとぼくの持つてゐるのを見て、医者になるかつて言つたんです」

手術後、初めて口にした白湯の美味しさに感動した。その後、自分の身体がみるみる回復、医療の力を実感していた。

医師も悪くないと思つたのだ。

生物部の友人たちとゲーム感覚で勉強したこともあり、隣県の鳥取大学医学部に現役で合格した。

根本は東京大学医学部卒業後、東京大学、自治医科大学などを経て、ドイツ、カナダに留学し、脳血管内手術の研鑽を積んだ。2002年に虎の門病院で「脳血管内治療科」を立ち上げていた。脳のカテーテル治療を掲げた専門科は日本初だつた。

「立ち上げから2ヶ月は旭川から勉強にきていた先生がおられた。一日だけその先生から引き継ぎを、あとはぼくと根本先生の2人ですね」

カテーテル使用により脳内での出血、脳梗塞などの合併症が起きる可能性がある。根本の施術では、それがほとんどなに舌を巻いた。

東京では虎の門病院から徒歩圏内、新橋のワンルームマンションを借りた。便利な場所ではあつたが、築40年以上の古

取大学大学院生のときだ。これはカテーテル——0.5mmから3mmの管を患者の足の付け根や腕から血管に挿入、大動脈を経由して頸部や脳の血管に誘導し、薬剤や器具を使用して行う治療である。

「脳神経外科でカテーテルを使つた治療をやつてゐるということも知りませんでした。ごく一部の医師が始めたばかりでした」

その後、とりだい病院の担当教授から薦められ、このカテーテル治療を東京の虎の門病院で研修することになった。ここで人生の師と出会うことになった。根本繁である。

根本は東京大学医学部卒業後、東京大学、自治医科大学などを経て、ドイツ、カナダに留学し、脳血管内手術の研鑽を積んだ。2002年に虎の門病院で「脳血管内治療科」を立ち上げていた。脳のカテーテル治療を掲げた専門科は日本初だつた。

「立ち上げから2ヶ月は旭川から勉強にきていた先生がおられた。一日だけその先生から引き継ぎを、あとはぼくと根本先生の2人ですね」

カテーテル使用により脳内での出血、脳梗塞などの合併症が起きる可能性がある。根本の施術では、それがほとんどなに舌を巻いた。

東京では虎の門病院から徒歩圏内、新橋のワンルームマンションを借りた。便利な場所ではあつたが、築40年以上の古

い建物だつた。物見遊山の気分で銀座や渋谷などテレビで観たことのある場所に行ってみた。しかしそれもすぐ飽きた。

「一人で回つても楽しくないことに気がついたんです。それからは仕事場とマンショングの往復の毎日でした」と笑う。坂本は根本と一緒に関東一円、

東海地方の医療機関を回ることもあつた。なかつたので、いろんなところから根本先生が呼ばれるんです。だいたいぼくが付いていつて2人で手術をする。根本先生と一緒に様々な症例の経験を積んだことは非常に大きかつた」

さらに根本は脳神経血管学会の専門医試験のために東京大学医学部の勉強会を紹介してくれた。

「東大だけでなく、いろんな大学から勉強に来ていました。東大(医学部)のOBの先生たちが講義に来て資料をくれるんです。その資料の出来が良くて、すごく勉強になりました」

この勉強会でさまざまな医師と知己を結んだことは坂本の大きな財産となつた。そして当初の予定通り、専門医試験を受験するため、東京生活は1年で切り上げることにした。

「今から考えれば、虎の門での生活は良かったので、もう少しいても良かつたのかなと思います」

松江市立病院を経て、2005年にとりだい病院に戻つた。根本と離れてみると、彼の唯一ともいえる気分転換は走ることだ。

「週に2日か3日走つています。土砂降りの中を走りたくないでの、天気予報を見ながら、その週の予定を組みます。ただ、決めた日が雨や雪でも走りますね」

「今から考えれば、虎の門での生活は良かったので、もう少しいても良かつたのかなと思います」

松江市立病院を経て、2005年にとりだい病院に戻つた。根本と離れてみると、

「今から考えれば、虎の門での生活は良かったので、もう少しいても良かつたのかなと思います」

腎臓は肝臓とともに沈黙の臓器と呼ばれる。その機能が著しく低下し、症状が進んでからしか気がつかない。医師にかかるときはすでに末期症状に入っていることが多いという意味だ。

「私は普段当たり前のようにご飯を食べて、飲み物を口にしています。その中から腎臓で身体に必要な物質は残して、不要な物質は捨てる。腎臓はフィルターのようなもの。正常に機能しなくなると、身体の中に毒が溜まつていくと考えてください」

隠れていますけど、非常に大事な臓器なのですと語るのは鳥取大学医学部附属病院、第二内科診療科群・腎臓内科長の高田知朗である。

腎臓は腰の上部の背中側に位置する。背骨を挟んで左右に一つずつ、握りこぶしより一回り大きく、そら豆のような形をしている。心臓から送り出される血液の約4分の1が腎臓に流れ込む。血液は「糸球体」でろ過され、「原尿」となる。糸球体は毛細血管の塊である。糸球体を包む「ボウマン嚢」が原尿を集めて「尿細管」に送る。「尿細管」は原尿を通す際、必要な水分や栄養を再吸収する。身体に水分が足りないときは多めに吸収すると、いった具合だ。残りは老廃物として排出。

腎臓は、一度悪くなると良くなることはない

腎臓は肝臓とともに沈黙の臓器と呼ばれる。その機能が著しく低下し、症状が進んでからしか気がつかない。医師にかかるときはすでに末期症状に入っていることが多いという意味だ。

「私は普段当たり前のようにご飯を食べて、飲み物を口にしています。その中から腎臓で身体に必要な物質は残して、不要な物質は捨てる。腎臓はフィルターのようなもの。正常に機能しなくなると、身体の中に毒が溜まつていくと考えてください」

隠れていますけど、非常に大事な臓器なのですと語るのは鳥取大学医学部附属病院、第二内科診療科群・腎臓内科長の高田知朗である。

腎臓は腰の上部の背中側に位置する。背骨を挟んで左右に一つずつ、握りこぶしより一回り大きく、そら豆のような形をしている。心臓から送り出される血液の約4分の1が腎臓に流れ込む。血液は「糸球体」でろ過され、「原尿」となる。糸球体は毛細血管の塊である。糸球体を包む「ボウマン嚢」が原尿を集めて「尿細管」に送る。「尿細管」は原尿を通す際、必要な水分や栄養を再吸収する。身体に水分が足りないときは多めに吸収すると、いった具合だ。残りは老廃物として排出。

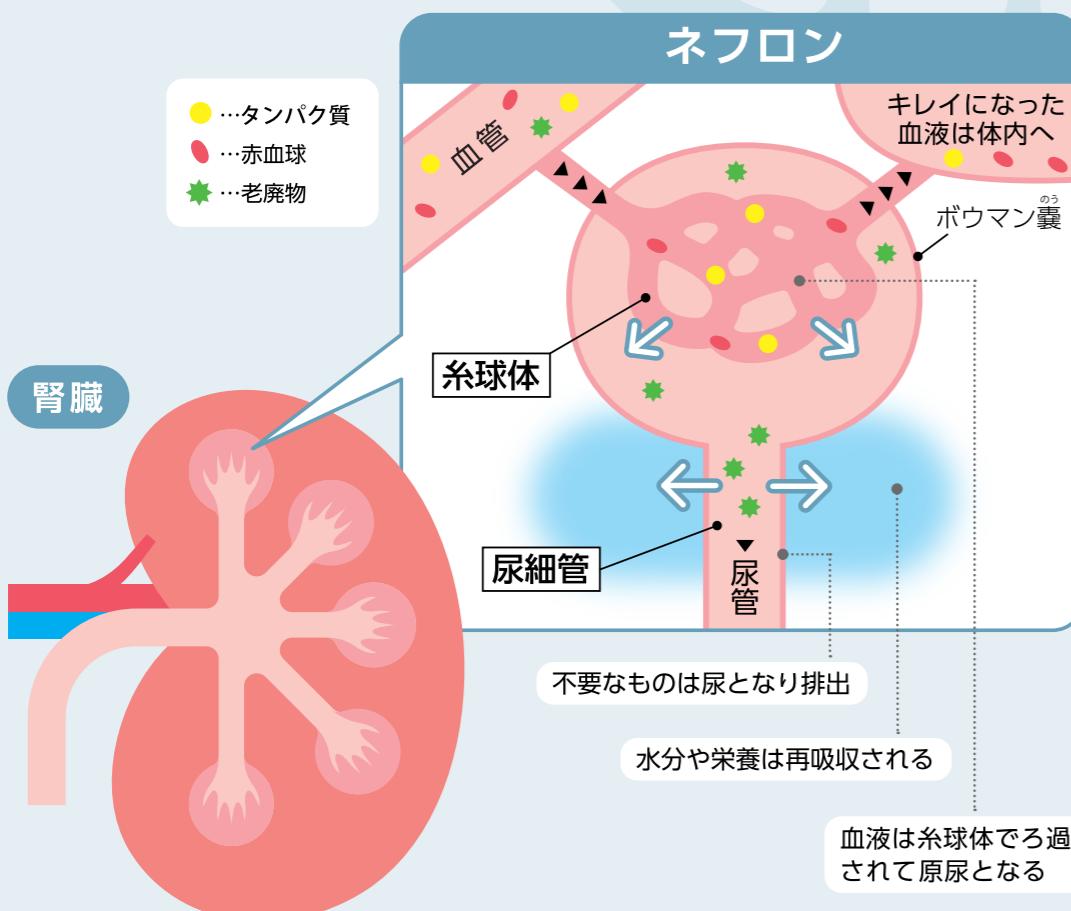
腎臓は、一度悪くなると良くなることはない

腎臓は肝臓とともに沈黙の臓器と呼ばれる。その機能が著しく低下し、症状が進んでからしか気がつかない。医師にかかるときはすでに末期症状に入っていることが多いという意味だ。

「私は普段当たり前のようにご飯を食べて、飲み物を口にしています。その中から腎臓で身体に必要な物質は残して、不要な物質は捨てる。腎臓はフィルターのようなもの。正常に機能しなくなると、身体の中に毒が溜まつていくと考えてください」

隠れていますけど、非常に大事な臓器なのですと語るのは鳥取大学医学部附属病院、第二内科診療科群・腎臓内科長の高田知朗である。

腎臓は腰の上部の背中側に位置する。背骨を挟んで左右に一つずつ、握りこぶしより一回り大きく、そら豆のような形をしている。心臓から送り出される血液の約4分の1が腎臓に流れ込む。血液は「糸球体」でろ過され、「原尿」となる。糸球体は毛細血管の塊である。糸球体を包む「ボウマン嚢」が原尿を集めて「尿細管」に送る。「尿細管」は原尿を通す際、必要な水分や栄養を再吸収する。身体に水分が足りないときは多めに吸収すると、いった具合だ。残りは老廃物として排出。



この糸球体とボウマン嚢、尿細管を合わせて「ネフロン」と呼ぶ。

人間は腎臓一つあたり約100万个、計200万个のネフロンを持って生まれてくる。

「加齢あるいは糖尿病や高血圧などが原因で糸球体が詰まってしまい、数が減っています」

現時点ではネフロンの残存数を計測することは不可能である。高田によると人に比べて差異があり、生まれつき少ない場合もあるという。その場合は残っているネフロンに負荷がかかっていることになる。

このネフロンの特徴は「不可逆性」であることだ。減ってしまえば元に戻ることはない。長生きすればするほど、腎臓の機能は確実に落ちていく。我々ができることは、その下りを緩やかにすることだけだ。

「腎臓に負担をかける要因としては、ま

ず塩分の取り過ぎ。日本人の塩分摂取量は1日10グラム（男性11グラム、女性9グラム）とされていますが、腎臓の病気の方には6グラム以内と指導しています。

タンパク質の摂り過ぎにも気をつけなければなりません。タンパク質は、ろ過されると、ネフロンに負荷をかけてしま

う。若い人は問題ないんですが、腎臓の悪い高齢者が（サプリとして）プロテインを摂っていると注意が必要。大切なのは水分を多く摂ること。エアコンの効いた部屋は非常に乾燥しており、水分が不



腎臓最新線 を知る

不可逆性・腎移植・腎センター

腎機能は低下してもなかなか気がつきにくい。
そして、厄介なのは腎臓は一度悪くなると、回復することがない——「不可逆性」の臓器であることだ。
2022年、地域の方々の腎臓を守るために、とりだい病院に「腎センター」が立ち上がっている。
その背景、理由を取材した。

取材・文 カニジル編集部 写真 中村治 イラスト 矢倉麻祐子

「靴下の跡がつきやすい、足のすねの部分をぐつと指で押して、跡が残つたら、注意が必要です。食生活に大きな変化がないにも関わらず、1ヶ月で1キロ、2キロ増えているら、体内に水が溜まっている可能性もあります」

医療現場ではeGFR（推定糸球体濾過量）という数値が使用される。これは1分間あたり糸球体でろ過される血液量のことだ。年齢と血清クレアチニン値から算出する。

「正常値は100。そこから下がつていきます。患者さんは100点満点で自分が何点かと考えてくださいとお話ししています。慢性腎臓病と呼ばれるのがだいたい60以下です」

30を切ると尿毒症の症状が現れる。15未満は「末期腎不全」に区分され、透析療法、あるいは腎臓移植の準備に入る。透析療法は、人工透析とも呼ばれる。血管に機器をつけないで、腎臓の代替とするのだ。大量の水を必要とする人工透析の機器はかさばり、1回あたり4時間ほどかかる。患者にとって大きな負担だ。

30を切ると尿毒症の症状が現れる。15未満は「末期腎不全」に区分され、透析療法、あるいは腎臓移植の準備に入る。透析療法は、人工透析とも呼ばれる。血管に機器をつけないで、腎臓の代替とするのだ。大量の水を必要とする人工透析の機器はかさばり、1回あたり4時間ほどかかる。患者にとって大きな負担だ。

腎移植は「慎重に」そして「用意周到」でなければならない

とりだい病院では腎臓には、2つの科が関わっている。一つは高田の腎臓内科、もう一つは泌尿器科である。

立腺がんなどすべて調べます。また、眼科や耳鼻科、歯科でも検査します。透析治療を受けている患者さんは、動脈硬化が起きています。心臓の機能も含めて手術に耐えられるかどうかもチェックしなければならない」

どんなに詰め込んで、2、3ヶ月はかかりますねと引田は付け加えた。

慎重に、そして用意周到な準備が必要なのは、絶対に安全に終わらせなければならないからだと強調する。「透析治療を続けていれば、すぐに亡くなってしまうということはない。長期的には生命予後が伸びますが、それ以外にも移植手術は患者さんの生活の質を高めることができます。それが大きな目的とも言えます。そのためレシピエント（移植を受けられる方）、ドナー双方に不利益を与えることがあっては絶対にならないんです」

移植手術は、まずドナーの身体から腹鏡などを使って腎臓を摘出する。摘出に要する時間は約2時間。同時に、受け入れる患者を開腹状態として移植場所を確保する（通常は患者側の腎臓は摘出しない）。ドナーから摘出した腎臓と患者の血管をつなぎ、血流を再開させる。尿が出ることを確認すれば成功である。

「数は多くないです、ある程度定型化された手術。ただ、医師、看護師、スタッフなどチームでの対応が必要になります」

とりだい病院が「腎センター」を立ち上げた理由

2022年4月、とりだい病院外来棟2階に腎センターが立ち上がっている。主導したのは、引田の上司、泌尿器科教授で副病院長でもある武中篤である。

「腎センターの目的の一つは、腎疾患の予防、そして早期に（医療）介入をして末期腎不全まで至らないようにすること。しかし、腎臓病というのは現状維持が最も長い。加齢とともにだんだん悪くなっていますので、現状に留めるのも難しい。末期腎不全になれば、腎センターで、透析治療、そして腎臓移植をやっていかなくてはならない」

医療には、「属人性」が高い分野がある。特定の医師の力によるところが大きく、その人間がいなくなれば、その病院での対応件数は一気に消滅する。山陰地区において、腎臓移植はまさにそうした分野である。

武中には、この地域の医療をとりだい病院が支えなければならないという義務感がある。

「2020年のデータですが、10万人あたりの医師数が鳥取県は338・1人で全国第4位でした。この数字だけ取り上げると医療が充実しているように見えます。でも人口が少ないから医師の絶対数

可能であれば、と引田が言うのは、現在、透析を受けている患者は日本全国に約34万人いるのに対し、腎臓移植は年間2000例強に留まっているからだ。

腎臓移植には、亡くなつた方の腎臓を使用する献腎移植と、患者の親族の腎臓を使用する生体腎移植の2種類がある。

「本来は亡くなつた方から提供を頂くことが多いが望ましい。生体腎移植は健康な方の腎臓を片方取ることになります。そのため、どうしても提供してくださった方の腎機能が悪くなります。日本では腎臓だけでなく他の臓器も含めて提供してくださる脳死、あるいは心停止のドナーの方の数が少ない。そのため、献腎移植をご希望されても、かなりの待機期間があり、すぐに移植を行えないのが現状です」

心臓が止まり、血液が流れなくなれば

「感染症がないこと、がんに罹患していないこと。移植の際、拒絶反応を防ぐために免疫を抑えなければならぬ。もしもがんに罹っていると一気に広がってしまいます。とりだい病院の場合ならば、胃がん、肺がん、肝臓がん、腎がん、大腸がん、膀胱がんがないか。また女性ならば子宮がん、卵巣がん、男性ならば前

移植を受ける側にも条件がある。

「感染症がないこと、がんに罹患していないこと。移植の際、拒絶反応を防ぐために免疫を抑えなければならぬ。もしもがんに罹っていると一気に広がってしまいます。とりだい病院の場合ならば、胃がん、肺がん、肝臓がん、腎がん、大腸がん、膀胱がんがないか。また女性ならば子宮がん、卵巣がん、男性ならば前

腎臓の組織は壊死する。心臓マッサージ、カテーテルで体内に還流液を注入しながらの移植手術となり、時間的、技術的な難度は高い。日本において腎移植の割合は約1～2割程度。残りは生体腎移植である。

生体腎移植のドナーの基本的条件としては、提供希望の方の腎機能が良いことや、治療していながんが無いこと、活動性の感染症が無いこと等に加え、「6親等以内の血族、配偶者」「3親等以内の姻族」であること等がある。さらに第三者による自己意思による提供であることの確認、年齢制限もある。

「血液型が違つてもさまざま術前処置を行うことで、現在大きな問題にならないことが多くなっています。（移植手術のうち）約半数の方が血液型の違うドナー。ドナーの腎機能が問題なく、感染症に感染していないこと、そしてHLA（ヒト白血球抗原）の組み合わせが極端に悪くなければ移植可能となることがあります」

移植を受ける側にも条件がある。

「感染症がないこと、がんに罹患していないこと。移植の際、拒絶反応を防ぐために免疫を抑えなければならぬ。もしもがんに罹っていると一気に広がってしまいます。とりだい病院の場合ならば、胃がん、肺がん、肝臓がん、腎がん、大腸がん、膀胱がんがないか。また女性ならば子宮がん、卵巣がん、男性ならば前

表：慢性腎臓病の重症度分類

糸球体濾過量 (GFR) 区分	尿蛋白の程度		
	(-) 正常	(±) 軽度蛋白尿	(+)～高度蛋白尿
正常または高値	≥ 90		
正常または軽度低下	60 ~ 89		
軽度～中等度低下	45 ~ 59		
中等度～高度低下	30 ~ 44		
高度低下	15 ~ 29		
末期腎不全	< 15		

GFR値と尿蛋白の程度によって分類。緑は正常。黄、オレンジ、赤の順に腎不全、心血管死の危険が高まるエビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018より改変

ちょっととしたことでも相談できるようになって助かっていますと笑った。

2022年の腎臓移植は3件、腎センターはまだよちよち歩きの状態である。まだまだ、これから。ただ、地域の腎臓を守るという彼らの目線はあくまで高い。



フォトルポルタージュ

病院×神樂

写真家・中村治が映画『高津川』

の「左鎧社中」公演を熟写

まずは満員のホールにお囃子の太鼓が打ち鳴らされ、神を迎える場を清めるための舞である『塩祓』。続く『塵輪』では、ダイナミックで緩急をつけた演舞、そして『恵比須』では恵比須様の滑稽な動きと、腰につけた籠からお菓子が撒き降らされた。会場の子どもたちの大喜びであった。場内の温度が一段高くなつたかと錯覚したのは『天神』だった。子ども神楽の中学生たちの、目にも止まらない速さとキレのある演舞に目を見張った。彼らは映画『高津川』にも登場している。映画の最後で舞つた小学生2人がこんなに

映画の中の神楽練習場は、彼らが日々使っている稽古場である。

明治の初期までは、神楽は神主などの神職が舞つていたという。神職への神楽禁止令により、日本全国どの地域も村人に神楽が継承されるようになった。左鎧社中の方々も、普段は会社や役場などに勤めながら、週一度の練習の他、週に一度の子ども神楽への指導、週末の各地での公演を行なつてている。

この日、子ども神楽、そして付き添いの親御さんを含めた総勢25名は、病院の多目的ホールに着くやいなや、慌ただしく準備を始めた。誰が指示することもなく、全員がそれぞれの役割を見つけ、自然と連携して動く手際の良さに、ぼくは圧倒された。そして2時間後、ホールはあつという間に、神楽の公演会場へと変貌した。

左鎧社中は、2トントラックに公演の道具を満載にし、早朝から片道250キロの道のりを、4時間半かけてとりだい病院へやって来た。彼らのホームタウン津和野市左鎧町は、山陰地方の東端、日本海沿いの益田市から南へ約30キロ。錦織良成監督の映画『高津川』の舞台となつた清流が流れる山間部である。映画をご覧になつた方には、廃校になつた小学校がある村、と言えばお分かりになるだろう。彼ら、彼女たちも映画に登場だ。

病院は「社会的共通資本」であるという原田省病院長の考え方で、とりだい病院は数々の文化発信を行なつてている。2022年春、外来入口横に新設された「ゲストハウス棟」の多目的ホールでは、映画上映、コンサートなどを開催している。この秋、とりだい病院にやって来たのは石見神楽の「左鎧社中」。神楽とは、神を祭るために奏する歌舞のことだ。錦織良成監督の映画『高津川』の舞台となつた島根県津和野市の左鎧社中にとっては鳥取県初公演。病院での神楽公演は日本初、いや世界初だろう。「さがみはら写真新人奨励賞」受賞の気鋭の写真家がこの公演に密着取材した。

大きくなつたのだ。最後の『大蛇』では、6頭の大蛇が演台のない舞台を縦横無尽に這い回り、その胴体が客の足元まで迫つた。終演後、止まらない拍手に観客の興奮と感動が強く込められていた。感

動で涙ぐんでいるお客さんもいたほどだ。映画と同じように少子化により左鏡の小学校は廃校となつた。しかし、昨年、保育園の園舎が新築された。多くの若い夫婦が左鏡に戻り始めたのだ。いずれ小

学校が再開される可能性もある。故郷に戻る理由のひとつに、また神楽を地元でやりたいから、という若者も多いと聞いた。神樂をはじめとした伝統文化は、少子化を食い止め、地域を活性化させる鍵

となるかもしない。いつの日か左鏡で小学生が開校されたとき、記念式典では、左鏡社中が晴れやかに舞つてことだろう。

写真家 中村治



スイーツ上田の「山陰」これ食っときや間違いない！

5 境港市 喫茶クロのあべかわ餅

6 境港市 Hayami 洋菓子店のチーズケーキ

7 倉吉市 お菓子処かわしまのいちご大福

8 琴浦町 パティスリーモンテの瓶パフェ

3 米子市 Hiromi スイーツカフェのわらび餅

4 米子市 Non Cafeのパンケーキ

1 米子市 LAND&YEARS のレアチーズケーキ

2 米子市 フルーツカフェサエキの苺のかき氷

「高度熱傷治療」の専門家でもある、高度救命救急センターの上田敬博教授。外見は無骨な九州男児にも関わらず（失礼！）、無類のスイーツ好き。休みの日にはケーキから和菓子まで美味しいスイーツを求めて、山陰各地に出没しています。そんなスイーツ上田の“推し皿”を秘蔵の写真とともに紹介。

文・写真 上田敬博 人物写真 中村治 構成 大川真紀

The collage consists of 8 Instagram posts from the account @sweets_ueda, each featuring a different sweet from a local shop in Yamaguchi Prefecture:

- Post 1:** 米子市 LAND&YEARS のレアチーズケーキ (Rare Cheese Cake from LAND&YEARS in Yonago City). A slice of cake topped with blueberries and mint.
- Post 2:** 米子市 フルーツカフェサエキの苺のかき氷 (Strawberry Shaved Ice from Fruits Cafe Saeki in Yonago City). A large bowl of pink shaved ice with strawberries.
- Post 3:** 米子市 Hiromi スイーツカフェのわらび餅 (Waraabi Mochi from Hiromi Sweets Cafe in Yonago City). Two brown warabi mochi balls on a green plate.
- Post 4:** 米子市 Non Cafeのパンケーキ (Pancakes from Non Cafe in Yonago City). Pancakes topped with whipped cream, syrup, and fruit.
- Post 5:** 境港市 喫茶クロのあべかわ餅 (Abe Kawabue Biscuit from Tea Room Kuro in Ekiyama City). A close-up of a textured biscuit.
- Post 6:** 境港市 Hayami 洋菓子店のチーズケーキ (Cheesecake from Hayami洋菓子店 in Ekiyama City). A slice of cheesecake next to a cup of coffee.
- Post 7:** 倉吉市 お菓子処かわしまのいちご大福 (Strawberry Daifuku from Oshigoto Chawashima in Kurayoshi City). Four white strawberry daifuku in a tray.
- Post 8:** 琴浦町 パティスリーモンテの瓶パフェ (Bottle Patisserie from Patisserie Monte in Kinosaki Town). A jar of strawberry mousse and a cup of coffee.

Each post includes a photo, the account name @sweets_ueda, and a caption in Japanese describing the sweet and its source. A large photo of a man eating a dessert is overlaid at the top right, with a speech bubble containing the title "スイーツ上田の「山陰」これ食っときや間違いない！".

世界の富裕層から教えて
もらったミキハウスの価値

ゼントボックス』をとりだい病院で提供して頂いたお礼から始めさせてください。（プレゼントボックスを持ちながら）この透明のカバーの素材と（画家の）朝倉（弘平）さんの絵が合っている。とりだい病院の広報誌『トリシル』の表紙に使った絵を使用していただきました。すごくいいですよね。

木村 他の病院でもプレゼントボックスをやっているんですが、とりだい病院ならではのデザインで可愛いね（笑い）。

原田 2022年9月12日から、とりだい病院で出産したお母さんすべてに、プレゼントボックスをお渡ししています。

最初は2021年の夏ぐらいに、慶應義塾大学医学部名誉教授の吉村泰典先生から慶應義塾大学医学部附属病院が、赤ちゃんが生まれたご家族のために、病院とミキハウスで相談をしながら内容を決めた新生児用品が入ったプレゼントボックスを渡しているという話を聞きました。

木村 吉村先生と原田病院長は同じ産科婦人科ですね。

原田 吉村先生は尊敬する先輩で、とりだい病院の運営諮問委員にもなつてもらっています。慶應義塾大学の話を聞いて、オリジナルのプレゼントボックスは

吉村先生から木村社長を紹介していただい
た。楽しい社長さんだから会っておいた
方がいいとも（笑い）。日本では少子化
が進んでいます。少しでもご家族の助け
になりたい、というお考えから始められ
たんでしょうか？

木村 それもありますが、日本の繊維業
界は技術が高くて、ものすごく質の高い
ものを作る力がある。ところがその良い
ものを安く売ってしまう傾向がある。

原田 子ども服に限らず、日本はずつと
デフレが続いてきましたね。他の先進国
と比べると給料も安いけれど、物価も低い
木村（領ひいて）良いものを作つても売価
が上がらない。当然、働いている技術者
の給料も上がらない。凄い技術を持つて
いて、いい商品を作れるのに辞めていく。
そういう環境だと良いものを継続的に
作つていくことはできない。ぼくたちは
良い物を作つて、お客様に喜んでいた
だきたい。同時に職人さん、技術者にも
その対価をきちんと支払いたい。そのた
めに、職人さんの素晴らしい技術に見合つ
た適正な価格を付ける必要があります。

原田 恥ずかしながら、ぼくはミキハウ
スの商品の品質が良くて、価格が高いこ
とを知りませんでした。振り返つてみれ
ば、うちの息子が小さい頃、ミキハウス
のブレザーを着ていたなという記憶があ
ります。

木村 ミキハウスの商品は高いかもしれ
ません。

レゼントボックスでその品質の良さを実感してもらいたいと考えたんです。

ミキハウスはロンドンの（老舗高級百货店）ハロッズに10年ほど前に出店しています。アルマーニとバーバリーの間にミキハウスがあつたんです。私が视察に行つたとき、値札を見たら、ずいぶん高い。日本円に換算すると日本の3倍くらいの値がついている。「これ、値付け間違えている」って指摘すると、店長からは「順調に売れています」という答えが返ってきたんです。世界の富裕層から見ればそれくらいの価値のある商品だということを逆に教わりました。ようやく日本国内でも同程度の価格設定をできるようになったところです。

原田 山陰のものづくりの現場でも同じようなことが起きていると聞きます。職人たちが食べていけないので、後継者が育たない。いい手仕事の作品、商品は正当な値段で売らなければならぬ。

木村 最初は一人で試行錯誤しながらやっていましたね。自分のところの商品がどれだけ耐久性があるのか確かめるために洗濯機を回し続けたこともあります。

何個潰したか分からんぐらい。だからこそ自信を持つています。

原田 洗濯機からヒット作も生まれたとか。

木村 あるときデニム生地を使い始めたんです。ところが、デニム生地は色落ちすることを当時のお客さんはみんな知らなかつたんです。洗濯したときに白い洋服が染まつてしまつたと、クレームが来ました。デニムが色落ちするのは当たり前なんですけれど、やっぱりそれを使つたこつちが悪いんです。それで洗濯して色落ちさせてから出荷することもしました。デニムって洗濯すると縮む。縮む分は計算しているんですが、少し皺になる。新商品なのにこれでいいんだろうかと、恐る恐る店に出してみたら「この皺がええ」とて喜んでくれたんです。それで石ころ入れて洗濯機を回して独特の模様を出すこともやりました。

原田 ストーンウォッシュですね。

木村 ストーンウォッシュ加工には本當は軽石を使うんです。ぼくは普通の石ころを入れたから、洗濯機がすぐに駄目になつた（笑い）。

原田 話は変わりますが、地方の大学の病院長としては、ミキハウスが八尾市といふ、大阪の中心部から離れた場所に本社を置いていることに興味があります。ある程度規模が大きくなると、本社を東京に移すという企業も少なくないですよ

新生児用品が入ったプレゼントボックスを渡しているという話を聞きました。木村吉村先生と原田病院長は同じ産科婦人科ですね。

原田 恥ずかしながら、ぼくはミキハウ
スの商品の品質が良くて、価格が高いこ
とを知りませんでした。振り返ってみれ
ば、うちの息子が小さい頃、ミキハウス
のブレザーを着ていたなという記憶があ
ります。

あつても一緒ですよ

原田 木村社長は創業当時から、品質にこだわっておられたと聞きます。

木村 最初は一人で試行錯誤しながら、やつっていましたね。自分のところの商口がどれだけ耐久性があるのか確かめるために先端機器を回していらっしゃいました。

ろを入れたから、洗濯機がすぐに駄目になった（笑い）。



写真・中村 治

ふみ日記

第四回 景色もまた楽し



昨年夏、米子北高校で開催された読書会に、講師としてお招きいただいた。

の際、参加した生徒の方に前もってアンケートに答えてもらつたところ、「今一番関心があること」という質問に対し、「自分の進路」という回答があつた。

進路。そりやあ気になるよな」と頷きつつ、自身の高校時代を思い出した。ちょうど、今から10年前の話だ。

当時、私はとある国立大を志望していた。いい大学だと、かねてから聞いていたし、オープンキャンパスに行って、その街のゆつたりした雰囲気も気に入つていた。関心のある分野（日本古典文学）をしっかりと学べるカリキュラムも、大変魅力的だった。

だが肝心の成績は振るわず、模試では、DもしくはE判定を連発していた。ちなみにD判定は合格率30%、E判定は20%以下である。

こんな成績では受かりっこない。でも、志望校は変えたくない。

正直、何度も葛藤した。悩んで悩んで、勉強が手につかなくなりそうだった（本末転倒である！）。そんなときは決まって、先輩たちの合格体験記を読むことにしていた。

進路の手引書や、受験専門誌に載つて

いたそれらは、「合格」体験記と銘打つているだけあって、素晴らしい成功例が揃っていた。中には、1ヶ月で偏差値を10も20もアップさせたり、E判定から見事合格を決めたりと、大逆転を果たしている方もいた。そうした成功談を読んで、「よし、私も」とやる気になつたことは、言うまでもない。

その後も時々心が折れくなつたけれど、毎日必死で勉強し、センター試験当日を迎えた。毎年同じ場所で実施されているのでご存じの方も多いと思うが、会場はここ、鳥取大学の米子キャンパスだった。

当然のことながら、普段受けていた模試とは、全く雰囲気が違つた。だだっ広い試験場には大勢の受験者が詰め込まれ、尋常ではないほどの緊張感が漂つていた。その空気には、私は完全に呑まれてしまつた。早い話が、散々な出来だったのだ。

特に、数IAがひどかった。ただでさえ数学が苦手なのに、今まで解いたことのないような問題が出され、頭の中が真っ白になつた。結果、自己最低点を叩き出してしまつた。（50点満点ならよかつたのにと思うような点だった）その

他の科目でも、案の定、終始慌てふためいていた。自己採点するまでもなく、志望校の合格ラインに届いていないことは明白だった。帰宅するやいなや、こう泣き叫んだことを、今ではつきり覚えている。「こんなんじゃ、どの大学にも行けないよ！」

それだけ大騒ぎしておきながら、どうしても諦めきれず、結局は第一志望の大手を受験した。もちろん、合格体験記のような展開にはならなかつた。

だが、思わぬ縁もあつた。併願していた私立大学が、たまたま拾つてくれたのだ。そうして私は、生まれ育つた鳥取を離れ、京都で4年間学ぶことになつた。

「自分のしたい勉強は、第一志望でなきやできない！」と思い込んでいたが、いざ進学してみると、そもそもなかつたことが判明した。むしろ、日本古典文学に関しては、志望校よりカリキュラムが充実しているくらいだった。（何と言つても『枕草子』や『源氏物語』など、日々学んでいた）

そればかりか、大きな転機も訪れた。大学3年生の夏、文章表現を学ぶ授業を受けたことがきっかけで、小説のほんとうの面白さに気づき、作家を目指すようになったのだ。

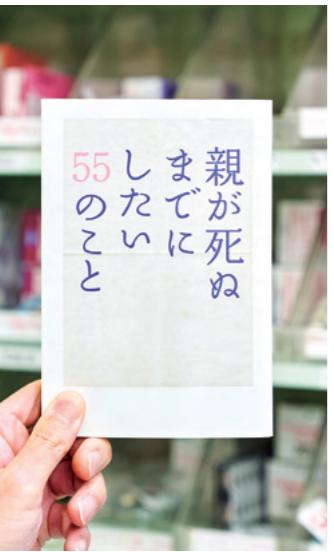
もしあの授業を受けていなければ、もし奇跡を起こして第一志望に合格していなかったのにと思うような点だった）その

大変な努力を重ね、自らの夢を叶えたのだろう。それは非常に素晴らしいことだし、爪の垢を煎じて飲ませてほしいとする。不合格者の声なんて、縁起でもないから受験生には読ませられないけれど、このコラムでならないだろう。受験生のみんな、どうか気負わずに試験に臨んではいい。そして進路に悩んでいたあの生徒さんも、「これでよかつた」と、心の底から思える選択ができるますように。

合格体験記を書いた先輩方は、きっと大変な努力を重ね、自らの夢を叶えたのだろう。それは非常に素晴らしいことだし、爪の垢を煎じて飲ませてほしいとする。

だけど、望んだ通りの道が最善だとは限らない。最初は目もくれなかつた脇道にも、案外楽しい景色が広がつているかもしれない。

不合格者の方の声なんて、縁起でもないから受験生には読ませられないけれど、このコラムでならないだろう。受験生のみんな、どうか気負わずに試験に臨んではいい。そして進路に悩んでいたあの生徒さんも、「これでよかつた」と、心の底から思える選択ができるますように。



「親が死ぬまでにしたい55のこと」

親孝行実行委員会 / 編

とりだい病院の1階に薬剤部がある。そこで医薬品情報の管理を任せられているのが森木邦明だ。医薬品の情報を収集して院内に情報提供し電子カルテシステムを活用して院内で薬が適正に使用できる仕組みを管理している。眞面目で温厚——周囲の仲間は、彼のことをそう評す。そんな彼が紹介した本は『親が死ぬまでにしたい55のこと』だった。

この本は、日本人の「親子」としての人生に着目したものだ。長寿世界一を誇る日本人は、親としての人生も長い。しかし進学や就職、あるいは結婚を機に子どもは親元を離れ、そのまま別々に暮らすことも多く、親子と一緒に過ごせる時間となる。そんな後悔をしないために、限られた時間の中でしておきたい55の親孝行エピソードが紹介されている。

愛情を受けて育ったことに気がつき、また両親の思考や行動、仕事に対する姿勢が知らず知らずのうちに自分に引き継がれていると思った。

現在、森木は両親と離れて暮らしている。会いに行くのは元々「盆と正月だけ」であり、その回数は年々減ってきている。自分にできることは何かと本の中のいくつかの試みを行動に移した。

「照れもあつて、やれることは、親を旅行に連れて行く、家族揃つての記念写真を

本は命の泉である

とりだい

【人生を変えた一冊】

薬剤部

森木邦明

文・中原由依子 写真・中村治

カニジルご意見箱 力二箱

とりだい病院内にあるカニジルブックストアに御書印を書いていただくために訪れたとき、「カニジル」を初めて読ませていただきました。病院広報誌で読み応えがあって、ためになって、写真もよくて感動しました！バックナンバーもじっくり読んでみたいと思います。

「カニジル」初体験で、制作側のこう伝わればいいな、というポイントを的確に表現してください、ありがとうございます。現在、入手困難な号もありますが、専用サイトではバックナンバーをすべて掲載しております。当院職員の輝きと、編集チームの汗と涙（？）の歴史がぎゅっと詰まっています。ぜひご覧ください。（大川）

カニジルへのご意見・ご感想を募集中！



www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/kanijiru/e/

とりだい病院ホームページからもアクセスできます。

トップ > 病院のご紹介 > 当院の広報物 > 読者アンケート回答フォーム



※ステッカーの種類は選べません。



鈴村ふみ
1995年、鳥取県米子市生まれ。立命館大学文学部卒業。第33回小説ぱる新人賞受賞作「櫻太鼓がきこえる」（集英社）でデビュー。小説家であり、とりだい病院1階のカニジルブックストア店長。

薬剤部
Q
から
A

現場を知ることの大切さ

新型コロナの感染が少し収まり、海外から友人や関係者が日本に続々と訪れるようになつてきた。先日はチエコの首都・プラハ在住の友人、そして

ンシスコからも親友が帰国して久しぶりに旧交を温めた。彼らとコロナ禍の間も、リモートやメールで会話は続けていたが、やはり、リアルで会い、食事をしながら、異国の事情や話を聞くのは格別、ぼく自身、この3年余り海外に渡航していないか、今更二度の情説は断然に断じた。

Tottori Breath



略して
とりたま
に訊け！

鳥取大学医学科生II医師のたまご

取材・文 井野寿音
写真 中村治



鳥取大学医学部医学科5年生の柳江健治は、少々変わった経歴の持ち主である。

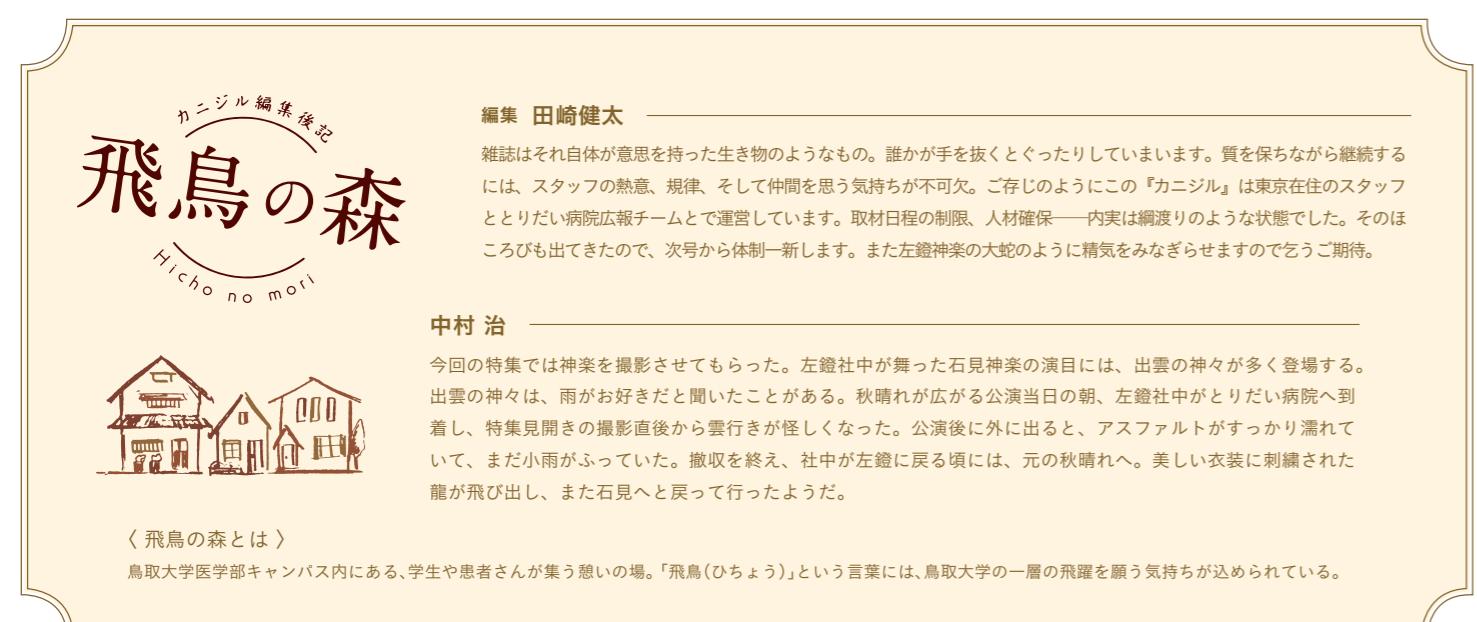
岐阜県の高校から名古屋大学経済学部に進学。銀行に4年間勤務した後、公認会計士を目指して銀行を辞めた。アルバイトをしながら公認会計士の資格を目指して勉強したが、合格後の就職は年齢的に厳しいと知り、資格取得は断念。そして居酒屋で契約社員の店長として働いていたとき、医師を志した。30代半ばのことだった。

は世の中のためになるようなことをしたいと思つたのがきっかけかけです」

工場のライン工やリゾートホテルのウェイターとして住み込みで働いた。そこでは派遣会社の名前で、あるいは「眼鏡」と呼ばれて悔しい思いをしたこともあった。実力主義であるはずの受験でも「年齢差別」があつた。ある大学の医学部では不合格の後、開示を求めるに年齢で大量に点数を引かれていた。また、「あなたのような年齢の人で未だに受験なんてご両親は泣いています。なんか、医師として育てるのは税金の無駄だ」と直接で言わされたこともあった。

同じように社会人を経て医学科に入学した知人が在籍していたことから鳥取大学を受験。鳥取とは縁もゆかりはない。しかし、今となっては、今まさに、自分たちの人生が、この鳥取で決まる。鳥取の人は、自分たちの人生を自分で決めるんだ。

しかし――。医学部に入つてからも苦労の連続である
「同級生がすぐに習得できる手技を、何回見せてもらつ
ても同じようにはできない。その分、朝早く行つたり
居残りをして、人の2倍練習しています」
将来は内科系か精神科に進むことを考えている。
「医者の世界では定年はあつてないようなもの。一生医師
として働くつもりです」と明るく笑う。その笑顔からは
回り道をした人間にしかない優しさが確かに感じられた。



編集 田崎健太

雑誌はそれ自体が意思を持った生き物のようなもの。誰かが手を抜くとぐったりしてしまいます。質を保ちながら継続するには、スタッフの熱意、規律、そして仲間を思う気持ちが不可欠。ご存じのようにこの『カニジル』は東京在住のスタッフととりだい病院広報チームとで運営しています。取材日程の制限、人材確保——内実は綱渡りのような状態でした。そのほころびも出てきたので、次号から体制一新します。また大鎧袖率の大蛇のように精気をみなぎらせますのでうご期待。

由村 治

今回の特集では神楽を撮影させてもらった。左鎧社中が舞った石見神楽の演目には、出雲の神々が多く登場する。出雲の神々は、雨がお好きだと聞いたことがある。秋晴れが広がる公演当日の朝、左鎧社中がとりだい病院へ到着し、特集見開きの撮影直後から雲行きが怪しくなった。公演後に外に出ると、アスファルトがすっかり濡れていて、まだ小雨がふっていた。撤収を終え、社中が左鎧に戻る頃には、元の秋晴れへ。美しい衣装に刺繍された龍が飛び出し、また石見へと戻って行ったようだ。

〈飛鳥の森とは〉

鳥取大学医学部キャンパス内にある、学生や患者さんが集う憩いの場。「飛鳥(ひちょう)」という言葉には、鳥取大学の一層の飛躍を願う気持ちが込められている。

ロシアのウクライナ侵攻影響やエネルギー事情、新型コロナへの対応や市井の人々の暮らしぶり。ぼくの質問は尽きない。コロナ感染によつて海外ではどんな混乱が有り、どう克服し、現在はどうなつてゐるのか。自然とぼくの持つてゐる情報や見方の裏付けを取りながら、時代の波や潮流を見るのに貪欲になつてしまふ。「なんだか取材されているみたいだよ」と友人が笑う。長年テレビの取材をしてきたぼくの悪い癖がまた出てしまつた。テレビや新聞が伝えている情報は、総論的な情報や記者が取材した、あるひとつ側面を切り取つた断片に過ぎない。ニュース枠や紙面の制約、視聴者や読者が受け取るニュースのバリューもある。また、記者の恣意的な見方にフォーカスされてしまつた情報も少なくない。その国の政治と庶民の日々の暮らし。本当は、自分がそこに行き、土地の上に立たないと正しくは分からないとぼくは感じてゐる。

メインパーソナリティー・田崎健太カニジル編集長の軽妙洒脱なリードに誘われて原田省病院長や武中篤副病院長、木野村尚子アナウンサーが「広報誌 カニジル」と「カニジルラジオ」の誕生秘話を披露。地域医療やとりだい病院の役割、そして未来の病院の姿を熱く語っている。

聞き逃した方は、とりだい病院公式Web 「カニジルラジオ」(<https://www2.hosp.mec>

ていいサボリ―をすれば高品質で安全性の高い手術を行える」と語る。



弘豐城結

1962年鳥取県境港市生まれ。テレビプロデューサー。とりだい病院特別顧問と本誌スーパーバイザーを務める。鳥取県アドバイザリースタッフ。培進網光協会会長。



〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター内「カニジル」編集部
TEL 0859-38-7039 / FAX 0859-38-6992
MAIL byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp



フォトグラファー 中村 治が切り取る
とりだい病院の日常



中村 治

1971年広島生まれ。成蹊大学文学部を卒業後、中国・北京に2年間留学。ロイター通信社北京支局の現地通信員としてキャリアをスタート。ポートレート撮影の第一人者である坂田栄一郎氏に師事。2006年に独立、現在は雑誌広告等のポートレート撮影を中心活動している。中国福建省の客家土楼とそこに暮らす人々を撮影した写真集『HOME』、2021年12月にはネオンサインを集めた『NEON NEON』(リトルマンブックス)を出版。2020年「さがみはら写真新人奨励賞」受賞。



check!

とりだい情報
日々発信中！

@ToriidaiHospital
www.facebook.com/ToriidaiHospital/